

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	虎ノ門ヒルズ ステーションタワー	階数	地上49F 地下4F
建設地	東京都港区	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	- 人
地域区分	6地域	年間使用時間	- 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2023年7月 竣工	評価の実施日	-
敷地面積	9,908 m ²	作成者	-
建築面積	8,059 m ²	確認日	-
延床面積	236,639 m ²	確認者	-

2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 3.9 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

標準計算

項目	スコア
①参照値	100%
②建築物の取組み	70%
③上記+②以外の	70%
④上記+	70%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 4.2

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.9

項目	スコア
音環境	4.4
温熱環境	3.9
光・視環境	3.5
空気質環境	4.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 4.2

項目	スコア
機能性	3.9
耐用性	4.6
対応性	4.1

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 4.8

項目	スコア
生物環境	5.0
まちなみ	5.0
地域性	4.5

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 4.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.6

項目	スコア
建物外皮の	5.0
自然エネ	4.0
設備システ	4.5
効率的	5.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 4.1

項目	スコア
水資源	4.1
非再生材料の	4.4
汚染物質	3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

項目	スコア
地球温暖化	4.2
地域環境	3.2
周辺環境	3.1

3 設計上の配慮事項		
総合 港区虎ノ門に建設される複合施設である。駅と街の一体的な開発により、「交通結節点」としての機能をさらに強化し、情報発信拠点を構え、新たな体験や価値、コンテンツや情報を創出し、東京から広く世界に向けて発信することを目指しています。	その他 -	
Q1 室内環境 ・遮音/断熱性能のよいサッシを採用し、室内環境の向上に配慮している。	Q2 サービス性能 ・非常用発電設備の設置等、災害時の設備機器の機能維持を図り建物の信頼性の向上に配慮している。	Q3 室外環境 (敷地内) ・屋上、空地部分を積極的に緑化し、緑による良好な景観形成、及び生物環境の保全に配慮している。 ・熱源システムをDHC(地域供給熱)を採用する事で温熱環境の向上に配慮している。
LR1 エネルギー ・システム性能評価が可能な計画とし、コミッションングの実施により、エネルギーの効率的な運用に配慮している。 ・運用管理体制の整備により、エネルギーの効率的な運用に配慮している。	LR2 資源・マテリアル ・雨水利用や節水器具の採用により、水資源保護に配慮している。 ・ユニット部材の採用により、非再生性資源の使用量削減に配慮している。	LR3 敷地外環境 ・駐車場の確保や出入りのしやすい駐車場計画により、交通渋滞緩和に配慮している。 ・周囲への漏れ光に配慮した屋外照明計画としている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される